

【平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業】

事業名	『個性を活かし職業観育成を促す研究開発』		
学校法人名	学校法人 武蔵野東学園		
学校名	武蔵野東技能高等専修学校		
代表者	学校法人 武蔵野東学園 理事長 寺田 欣司	担当者・連絡先	武蔵野東技能高等専修学校 今城 慎一郎 0422(54)8611

< 事業の概要 >

学卒就職後3年目までに離職するものが高卒で約5割という報告がある。また卒業時に定職に就かない者も高卒で増加傾向にあるという。これについては不況下における企業側の採用抑制中心の雇用調整、若年層の職業に対する目的意識の希薄化、親との同居による経済的な支えの有無、職種等のミスマッチなど、いくつかの側面からその原因を分析することができる。

その一方で、平成16年度より高等専修学校卒業予定者に係る職業紹介業務の取扱等について新規高卒者と同様な取扱がなされることで、高等専修学校は高等学校と全くの横並びでの就職活動が展開される。そのような中で職業教育を実践している高等専修学校での職業観の育成が注目されると考えられる。

本事業では高等専修学校でなし得る「職業観の育成」という点に着目し、進むべき道の選択（やりたい仕事と出来る仕事の違い）、目標設定（人生設計等）、努力する価値観を個性と摺り合わせていくこと（個への対応）等を、これまでの実践事例や今後の調査等を通して研究し、その成果を専修学校における教育に還元することを目的とする。

< 成 果 >

カリキュラム・・・

カリキュラムは、各学年ごと下記のように指導方針を定め、段階的に職業観を高めていけるような工夫が、今後必要であるという観点から作成した。

第1学年

【指導方針】

将来の目標を実現させるための進路計画を考えさせる。  
職業・上級学校についての理解を深めさせる。

第2学年

【指導方針】

自分の個性を活かす進路の方向性を具体的に考えさせていく。  
希望する進路実現に向けて堅実な計画性を持って実践させていく。

### 第3学年

#### 【指導方針】

卒業後の進路決定に向けて積極的な計画・実践をさせる。  
将来に目を向け、自分のライフプランを考えさせる。

#### チャート

チャートでは、カリキュラムを視覚的に捉え、現時点において自分自身が何が必要であるかを知り、進路に関わる自己意識を高めていくことを主たる目的として活用する。

#### 教材

チャートで得た漠然とした自己の現状を、追究あるいは、探究していくことを目的とする。自己分析をすすめていくことは、最終的に、進路決定の際、自身に良い結果をもたらす要因になると言える。

実際のカリキュラム・チャート・教材が必要な場合は、上記連絡先へご連絡下さい。

上記成果物が、全国の高等専修学校で広く活用される事を願ってやまない。

3月4日(金)アルカディア市ヶ谷(私学会館)で行われた事業報告会で配布させていただいた事業報告書の「まとめ」、「おわりに」に掲載している文章は、本事業を共同研究した郡山学院高等専修学校・大竹高等専修学校・国際ビジネス専門学校・立修館高等専修学校・武蔵野東技能高等専修学校の総意であり、今後、「職業教育」を推進していく上で、忘れてはならない教訓である。是非、ご一読いただきたい。

#### 「まとめ」

学校教育法の第82条の2に専修学校についての定義が述べられている。すなわち「第1条に掲げるもの以外の教育施設で、職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的として次の各号に該当する組織的な教育を行うもの(当該教育を行うにつき他の法律に特別の規定があるもの及び我が国に居住する外国人を専ら対象とするものを除く。)は、専修学校とする。」(以下省略)

以上のように「職業教育」を行うための学校という明確な定義に乗っ取って高等専修学校という学種があるが、専修学校という学種はこれまで柔軟な教育カリキュラムを実施し、多様な個性の生徒たちや様々な社会のニーズに対応してきたことは、多くの方々の認めるところでもある。まさに我々が研究を進めてきた「個性を活かし職業間を育成する教育研究開発事業」のテーマと合致するものである。

その中でも、高等専修学校という学種(専修学校高等課程)は高校生年齢の若者たちに「職業観育成のための教育」を行い、これまで多くの人材を社会に送り出し、微力ながら日本の社

会に貢献してきたと自負しているところである。その一方、18歳で就職した若者のうち約5割が3年以内に離職しており、フリーターが日本の社会問題になっている現在、高等専修学校の使命は今後ますます大きなものとなるのではと予想している。

また、今回のアンケート調査の結果で明らかになった点から言えることの一つに、高等専修学校に在籍する生徒たちの中にも様々な個性、考え方、意識があるということである。その個性等は、各校の分野によって、はっきりと傾向が見られた。分野が違うことで、目指す方向性が異なることは当たり前のことであるが、働くという観点においては、職業教育を行う高等専修学校は、同様な基準を持つ必要があると思われる。こうした生徒たち一人ひとりに対して(卒業後一人ひとりが「居場所」を見つけられるような進路選択の支援という意味で)何が最善の道であるかを常に提示しながら、各校の足並みをそろえ、高等専修学校生徒全体の意識向上に努めたいと願う。

さらに、現在の経済的不況のさなかにあって若者たちが置かれている厳しい立場をアンケート調査結果がよく表しているという実感を得た。我々は今回のような機会を捉えて情報交換を密にし、互いに連携を図りながら高等専修学校全体の進路指導、職業教育のレベルアップに貢献するものでありたいと思い、今後も可能性の追求、置かれている現状からの飛躍という思いをさらに強めるものである。

また、単なる「高等専修学校の職業教育」から「高等専修学校ならではの職業教育」というものを作り上げていくことが、今後、高等専修学校の存在意義を世に大きくアピールすることにもつながっていくことと確信する。

最後に、今回5つの高等専修学校

- ・ 郡山学院高等専修学校  
：第6分野 商業実務関係
- ・ 武蔵野東技能高等専修学校  
：第8分野 文化・教養関係
- ・ 国際ビジネス専門学校  
：第6分野 商業実務関係
- ・ 大竹高等専修学校  
：第2分野 衛生関係  
：第7分野 服飾・家政関係
- ・ 立修館高等専修学校  
：第5分野 教育・社会福祉関係  
：第6分野 商業実務関係  
：第7分野 服飾・家政関係

がこの研究開発事業に携わったわけであるが、設置学科分野、教育目的、また地域を異にする高等専修学校がその枠を超えて、アンケートの分析や実地調査において連携を深め、議論に議論を重ねて作り上げた「進路指導カリキュラム」「職業観育成のための教材」を巻末資料として紹介するものである。

これらのカリキュラム、教材を各学校で活用していただけるならば、高等専修学校に在籍する若者たちの「職業観育成」のために十分寄与できるものであると自負するところであり、またこれ以上の幸せはないと本事業の実施委員会のメンバー一同心から願うところである。本委託事業を通して実感したことは、職業観育成の難しさ故の重大さであった。

「おわりに」

職業観の育成は、いつから始めればよいというものではない。意識するきっかけは、日常生活の中に、ゴロゴロと転がっているの、いかに自然な事象として触れる機会を多く持つかといういことになる……。

まとめて述べたことは、我々研究協力校の総意であるが、このような回想から、実施委員長が勤務する武蔵野東学園の「障害のある生徒の進路指導」について、研究することが、更に職業観育成という視点において意義があるのではないかと思われた。と言うのは、武蔵野東学園では、幼稚園の段階から自閉症児と健常児の混合教育を実践しているのだが、とりわけ、自閉症児においては4歳の段階から、職業教育を保護者に施し、18歳における我が子のあるべき姿を思い描き、そこから逆算した、段階的な日常生活や社会生活スキルの向上に努めているのである。これは、生まれ持った、ハンディキャップがあるからこそ出来る、とても根気のいることである。

折しも、平成17年度 専修学校教育重点支援プランの中で『高等課程の個性化推進』が新規で予算計上された。先に述べた「障害のある生徒の進路指導」について研究すべく準備はすでに始まっている。

ここで、興味深い統計資料があるのでご紹介したい。

#### 全国高等専修学校協会 制度改善研究委員会の実施したアンケート結果

(平成16年末・平成17年2月 2回実施)

会員校238校中	124校より回答(回答率 52.1%)
在籍数	19,478人
障害のある生徒数	382人……(全体の2.0%)

以上の結果から、

今回の研究成果を基礎として、障害のある生徒が社会自立するまでのプロセスが、いかに険しいものであるかを分かりやすくまとめ上げることは、武蔵野東学園の個性化推進でありながら、高等専修学校全体(上記アンケート結果から1校あたりの平均在籍数(障害のある生徒数)を算出すると3.1人となる)に希望をもたらすものである。

結果として、高等専修学校という学種が職業教育に加え、障害のある生徒への教育にもその個性化(独自性)が推進されれば幸いである。高等専修学校において、障害のある生徒もない生徒も、精一杯可能性に向かって、自己を高めていけるような教育環境を築き、それを発展させていくことを我々は強く願っている。